

学習院輔仁会水泳部「創部 50 周年記念文集」（昭和 60 年 4 月 20 日発行）から『草創期の大学水泳部』を抜粋し、ご高覧に供します。

草創期の大学水泳部

昭 29 大卒 加 藤 正 躬
渡 辺 正 直

六・三・三制の発足に伴って、旧制中等科の五年となる年（昭和 23 年・1948 年）に新制の高等科二年へ移行となった私たちのクラスは、せいぜい三、四人止まりの上のクラスに較べると、少しばかり部員数が多かった。フリーが二人（加藤、渡辺）、ブレストが三人（戸澤、坪井、吉田）、バックが二人（花房、山本）と都合七人在籍し、みんな練習にも休まず、よく参加した。上級生が下級生に対して、絶対の命令権と腕力行使権を持っていた軍国主義教育時代の名残りのあった時期にも拘わらず、上級生からこの種の圧力を受けたことのなかったのは、人数が多く、纏まっていたからかも知れない。昭和二十五年高等科卒業の七人はそれぞれの志望校に進むこととなる訳だが、学習院大学に進んだのは加藤と渡辺の二人である。中・高時代のことは他の諸君に任せて、大学水泳部発足当時のことを思い出すまま書き記す。

昭和二十五年度（1950 年）

昭和二十三年に学習院大学が創設されたが、大学水泳部の発足は私たちが入学したこの年四月のことである。中等科・高等科を通じて水泳部に所属していたので、大学にも水泳部を設けなければならないという使命感があったような気がする。

この年、東伏見の早大プールで開催された関東学生競泳の三部に出場して、加藤は 100 米自由型予選で一位のタイムを記録した。然しながら、運営役員からリレー種目に出場しない大学には参加資格なしという裁定があり、そのあとのレースには泳ぐことが出来なかった。発足当時の悲哀の一つであるが、如何せん部員が二人ではどうしようもない。そこで人集めにかかり、過年度入学の楠瀬、小杉両氏や同年度の松島らの入部が得られることとなったが、この年は水球リーグにも出場出来ず、水泳部として見るべき活動は行っていない。

昭和二十六年度（1951 年）

水泳部の輝かしい活躍が早くもこの年に始まった。昭和二十四年に加藤、渡辺と共に高校水球の全国大会に東京都代表として出場した佐野、藤崎、久松らが高等科から入学し、主将加藤の下にチームが結成された。先ずは春季関東学生水球リーグへの出場を目指して、小島宣夫先輩の指導を受けつつ、初参加・初優勝の意気込みで練習を重ねた。戦前の三部の下馬評は明大、東工大が優勢ということで、学習院は問題にされていなかったようであるが、戦績は次のとおりで、

関東学生水球リーグ三部成績

6 月 24 日 対東工大 8-3 勝

6月27日	対日体大	22-2	勝
6月30日	対一橋大	28-1	勝
7月1日	対明治大	15-1	勝
〃 〃	対学芸大	12-1	勝

五戦全勝を果たして三部優勝となった。

水連機関紙「水泳・第九二号」を見ると、「・・・三部優勝の学習院は断然たる強味を見せ、東工大との一戦を除いては何れも十点以上の得点差を示し、今直ぐ二部で戦っても上位をねらえる実力を具備している。春の合同練習に最も熱心な態度を堅持した学校の一つであった事を想起すれば、当然の帰結と言って差し支えない。・・・以上を総合すれば、慶大、早大、日大のビッグスリーがAクラス、中大、立大、東大、成城、成蹊、学習院がBクラス、残りがCクラスとなるが・・・。」という記述があり、学習院の活躍が特筆されている。一部の下位校、二部優勝の東大などと共にBクラスにランクされているのは寔に喜ばしい。

八月、大阪での全日本選手権に小島先輩の参加を得て全学習院として初出場し、二回戦に進んだが、当時関西では無敵を誇っていた近畿水泳クラブに完敗するところとなった。

8月10日	対鴨漸クラブ	7-3	勝
〃 〃	対近水クラブ	4-20	負

九月、関東学生競泳においても三部優勝を果たすところとなり、この年競泳、水球ともに三部から二部への昇格を達成することが出来たのである。

全学習院 メンバー

GK	田原
LB	小島
RB	楠瀬
HB	佐野
LF	渡辺
CF	藤崎
RF	加藤

昭和二十七年度（1952年）

渡辺が主将となり、鎬木、後藤、高橋、花山、松石らの新鋭を迎え、競泳と水球それぞれに人材を揃えてシーズン入りした。三月には第一回卒業生として楠瀬兄を目出度く送り出したが、この年はチーム力が充実した年と言ってよいだろう。

六月、関東学生水球リーグが待望の神宮プールで開催され、勇躍参加した。フローティング・システムをとるサッカー風の水球から、速攻・防御のバスケット・ボール式の水球へと、「泳ぐ水球」が提唱され始めたのがこの年であったように思う。競泳短距離の藤崎、中・長距離の花山、攻守何れのポジションもこなす佐野らを擁してチーム力の強化に努めた結果、よく泳ぎよく守って、二部においても全勝優勝することができた。

関東学生水球リーグ二部成績

対学芸大	15-1	勝
対法政大	19-0	勝
対成蹊大	13-0	勝
対東工大	9-2	勝
対教育大	8-4	勝

同じ六月、神宮プールでの全日本にこの年は学習院大学チーム

リーグ戦 出場メンバー

GK	田原
〃	(久松)
LB	小杉
RB	花山
〃	(田原)
HB	佐野
〃	(花山)
LF	後藤
〃	(佐野)
CF	藤崎
〃	(渡辺)
RF	渡辺
〃	(佐野)

として参加、一部リーグ五位の中央大チームをOBで補強した白水会に一回戦で当たったが、2-9で敗退し、この年も上位へ進出することはできなかった。

九月、関東学生競泳では二部での優勝を成し遂げ、前年に引き続いて競泳、水球とも揃って一部へ昇格する成績を収めることができたのは欣快事であった。

シーズン終了後、役員の交代を行い新主将に就任した加藤は一部に昇格したチームを強化するための施策として、

1. 優秀なコーチを招聘して技を習うこと、
 2. プールを嵩上げすること、
- を考え、実行に移した。

昭和二十八年度（1953年）

小杉兄を第二回卒業生として目出度く送り出したが、四年加藤、松島、渡辺、三年佐野、田原、藤崎、小沢、二年鏑木、後藤、高橋、花山、小野寺らは健在。新部員として渡辺（昇）、荻野らを迎える。

これまで合宿は八月に競泳練習を中心に目白で行っていたが、一部水球リーグに備えて、この年はシーズン当初の合宿練習を試みた。五十米で、足の着かないプールを探したところ、宇都宮の栃木県営プールが借用できることとなり、来るべき本格的練習に備えることとした。続いて、目白のプールにおいては、水連の幹旋を得てコーチとして招聘した早大OB丸笹氏の熱心な指導の下に、活気溢れた練習振りを展開し、六月の一部水球リーグに臨んだのである。

選手一同の志気は極めて旺盛であったが、然しながら一部チームの実力は予想以上に高く、戦局は苦戦の連続であった。立教に一勝して辛うじて面目を保ったが、慶応、早稲田、日大、中大には勝ち目もなく一部リーグ五位に留まった。

この年の全日本では早稲田と大接戦をやり、前後半〇対〇、延長戦においても〇対〇で推移し、タイムアップ寸前に一点を許して惜敗した。

一部校への昇格を目指して四年間研鑽を積んできたが、一部の上位校に伍して戦うことのできたのはこの一戦だけであった。一部リーグの上位進出は次の時代の諸君に期待して、私達は卒業することとなる。

原稿締切り期限が到来したので、資料調べが不十分のまま、草創期の大学水泳部についてのクロノロジー的記述にとどまっているところであるが、後につづく若い世代に、将来この小編が何かを残すことになれば、いささかの意義を持つことと思う。

なお、昭和二十五年、大学進学の際に夫々の志望校に進んで行った七人は、音信不通となってしまった吉田君一人を除いて今以て交友を続けており、これも水泳部のお蔭なのであろう。よき友、よき先輩・後輩を得た目白のプールが無性に懐かしい。

（了）

2011/9/4